世界の中の秋田蘭画

阿部邦子著

国際教養大学　アジア地域研究連携機構

世界の中の
秋田蘭画

阿部邦子著
国際教養大学　アジア地域研究連携機構

世界の中の秋田蘭画

文及び編集制作：阿部邦子
デザイン：西田拓十 (研究助手)
発行：国際教養大学　アジア地域研究連携機構
http://web.aiu.ac.jp/iasrc/

国際教養大学 アジア地域研究連携機構主催
同大学阿部邦子准教授制作 中嶋記念図書館に於ける
パネル展「世界の中の秋田蘭画」（2017 年 11 月 8 日～
2018 年 1 月 12 日）関連出版

Copyright ©2018
Akita International University
Institute for Asian Studies and Regional Collaboration
ISBN 978-4-9908872-4-7
Printed in Japan

目次

はじめに ……5

序章 ……7

秋田蘭画とは ……9

江戸時代の視覚革命と秋田蘭画 ……11

小田野直武　挿絵 『解体新書』……13

佐竹曙山　松に唐鳥図 ……15

小田野直武　三またの景 ……16

佐竹曙山　湖山風景図 ……19

小田野直武　不忍池図 / 芍薬花籠図 ……21

秋田蘭画写生帖 ……22

秋田蘭画の展開と西洋画法論 ……24

佐竹曙山　二重螺旋階段図 ……27

秋田蘭画の悲劇 ……28

ヨーロッパ絵画への影響と秋田蘭画の今日 ……31

参考文献と目録 ……32

はじめに

このブックレットは慎ましいサイズながら秋田蘭画派のパイオニアスピリット、その絵画の貴品ある質・典雅さに敬意を表し、また世界の美術史に「私達の」一頁を捧げようというものです。当初の目的は国際教養大学中嶋記念図書館にて開催された「世界の中の秋田蘭画」パネル展(2017 年 11 月 8 日 - 2018 年 1 月 12 日) の為の簡単な歴史・図録入り小カタログの制作で、研究結果によるトピック性に焦点をあて、明確な解説、インパクトの強い図版制作に留意しました。基本的には学生や美術愛好家を対象とした手引書なのですが、実は専門家の要求をも満たそうと殆ど実現不可能な程の意欲を持って出発しました。ただし、有名な美術史家のエルンスト・ゴンブリッチの 『美術の物語』 同様、容易に読めるように、学術的な参考文献の引用・脚注記載は意図的に割愛しました。

ここにささやかながら貴重なブックレットが完成し、所蔵作品の写真を提供していただいた全ての関係機関及び匿名の個人所有者に心から感謝の念を表します。千秋美術館学芸員の松尾ゆか氏、またマニトバ大学アジア研究センター長ウィリアム・リー氏には最初から最後まで助言また協力をいただきお礼を申し上げます。2016 年度から二年間に及んだ秋田蘭画調査研究の活動は全て国際教養大学・アジア地域研究連携機構 (IASRC) からの教員プロジェクト支援により実現しました。その中で特に機構長熊谷嘉隆氏の支援を受け、また金由貴子氏からは事務的な助けを受けました。ここに感謝します。また原稿の校正を手伝い、励ましてくれた全ての同僚、特にパトリック・ドーティー氏、豊田哲也氏、秋葉丈志氏に感謝します。最後に、このブックレットのデザインを担当してくれた研究助手・西田拓十氏の素晴らしいデザイン感覚と才能、そしてその情熱・努力がなければこのブックレットは完成しなかったことをここに特記したいと思います。

2018 年 3 月　秋田

阿部邦子 (Ph.D. 美術史)
国際教養大学 准教授

序章

秋田蘭画は、秋田の若い藩士達が成した、日本で初めて西洋の影響を受けた絵画の派です。蘭画は、オランダ東インド会社を介して江戸時代に開花した蘭学の副産物と見なされています。文化的・学問的背景の地平線をより広く見据えた二年間に及ぶ秋田蘭画のイコノグラフィー調査により、この秋田派は日本美術史という限られた枠では全貌を捉えられないと確信するにいたりました。秋田蘭画は単に辺境の束の間の文化現象ではありません。当時発達した自然科学等の知識が大海原を舞台として地球規模にひろまった大航海時代、そしてそれに伴う各種の豊かなイメージも一緒に旅をしたという時代の産物なのです。これから展開する分析は、フランスのシャンボール城にあるレオナルド・ダ・ヴィンチ考案の二重螺旋階段、フランドルの画家ヤン・ブリューゲル原図による銅版画《良きサマリア人》、東京の上野にある不忍池等、秋田蘭画と関連する時空を超えた場そして芸術作品を繋げ、グローバルな世界史の中で秋田蘭画の国際的広がりを視覚文化として追跡するものです。世界の美術史の中での秋田蘭画派の位置を見定めると、新しい物語が生まれます。西洋の作品との交流によるこれらの非常に洗練された秋田蘭画作品は、革新的な構図を持ち、それがまた旅するイメージとして遂にはヨーロッパに里帰りし、イメージは最終的にはループを結ぶことになるのです。

1 小田野直武筆　鷹図
秋田市立千秋美術館寄託　個人蔵

秋田蘭画とは

秋田蘭画とは、文字上では秋田の阿蘭陀風絵画（蘭画）です。江戸期18世紀後半に、秋田藩の武士たちが、伝統的な材料を使用し、秋田派とも呼ばれる日本初の西洋風絵画の派を成しました。主要な画家として、大名の佐竹曙山、家臣の小田野直武の二人がいます。秋田蘭画は、舶載科学書等から学び、写実的で細かな自然描写、西洋風イリュージョニスムを花鳥画に取り入れました。構図は近景を強調し、陰影をつけ、しばしば低い地平線上に遠景の景色を組み合わせています。

秋田蘭画誕生は、１７７３年に藩主佐竹曙山が、地質学者の平賀源内に秋田藩の銅山調査を依頼し召喚したことを発端とします。蘭学者だった源内は西洋絵画法にも馴染みがありました。この来訪の機に源内は直武に出会い、陰影法を教えます。その後直ぐ江戸へ行くよう曙山から命を受けた直武は、五年の間源内のもとで洋書の挿絵等から西洋画法を学びとりました。更に、写実的な表現の花鳥を特徴とし、当時の知識人や武士に人気の高かった南蘋派（なんぴんは）の代表的画家の一人の宋紫石（そうしせき）にも出会い影響を受けたと推測されます。

江戸時代の視覚革命と秋田蘭画

江戸期の鎖国政策は 1720 年の徳川吉宗によるキリスト教関連書を除く洋書解禁により緩やかになり、自然科学書等の舶載洋書による蘭学フィーバーが興ります。その上、望遠鏡、カメラ・オブスクーラ等が輸入され、従来の伝統的な視覚に革命が起き、江戸後期に新しい視覚文化が生まれ開花します。西洋の自然科学を学び、自然をスケッチしながら、アーティスト達は科学的な透視図法から描こうと試みました。線遠近法や鳥瞰図法は既に中国を通して日本には導入されていましたが、日本のアーティスト達はより正確で直接的な情報を得ることにより、これらの技術をいち早く改良することができました。洋風の日本画の先駆けである秋田蘭画派はこのような背景で誕生したのです。

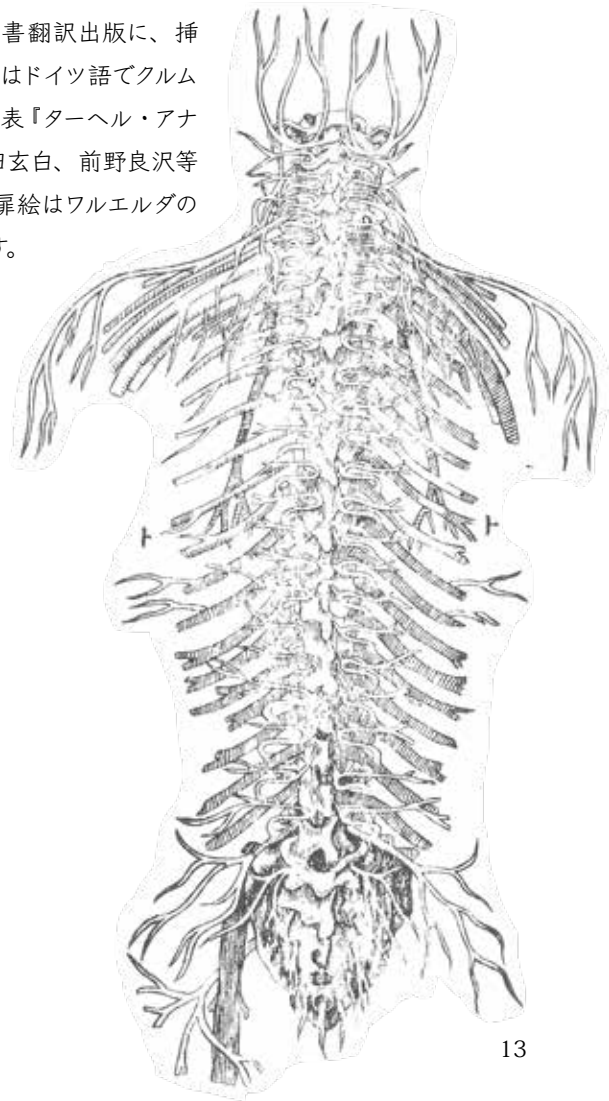
鈴木晴信　高野の玉川（部分）
メトロポリタン美術館蔵

小田野直武　挿絵　『解体新書』

小田野直武は、日本初の西洋医学書翻訳出版に、挿絵画家として貢献しました。この書はドイツ語でクルムスが書きオランダ語訳された解剖学表『ターヘル・アナトミア』に基づき、日本語訳は杉田玄白、前野良沢等によってなされました。直武による扉絵はワルエルダの『人体解剖図説』を原図としています。

2　左：小田野直武筆　『解体新書』附図
扉絵（部分）
秋田市立千秋美術館蔵

3　右：小田野直武筆　『解体新書』附図
「神経従脊椎出」（部分）
秋田県立図書館蔵



4 佐竹曙山筆　松に唐鳥図
秋田県立近代美術館寄託　個人蔵

佐竹曙山　松に唐鳥図

この絵で圧倒的な存在感を持つのが、近景に斜めに配された太い根上がりの松です。狩野派の大胆な松の襖絵の如き構図ですが、幹には陰影がつけられ立体感が表現されています。典型的な日本の松の木に、ハッとするような朱色と緑色の羽のインコが止まっています。南国の鳥のインコと日本の松の木との組み合わせは、なんとも不思議で非現実的です。このインコと全くおなじものが曙山の写生帖にみられるので、製作は紛本（ふんぽん）構成で描かれているとみられています。紛本とは後日の制作の為に模写した絵であり、諸題材を組み合わせて、構図を調整するのに必要な資料です。秋田蘭画の画家達は狩野派を学び、その伝統的な画技に基づいた紛本構成の中に舶載銅版画などから得た西洋画法を取り入れました。中景は存在せず、遠景は西洋の風景銅版画に見られる細密な線(ハッチング）で描かれています。西洋的な風景画の一方、湖に浮かぶ帆掛け舟は日本的です。近景は大胆に拡大され、まるで遠景に貼り付けられたような奇抜さがあります。これが独特の印象を与え絵画としての鑑賞価値を更に高めているのです。

5 佐竹曙山筆　唐鳥図（佐竹曙山写生帖より）（部分）
秋田市立千秋美術館蔵

6 小田野直武筆　三つまたの景
天理大学附属天理図書館蔵

小田野直武　三つまたの景

景色は日本橋中洲の三俣で、当時は江戸随一の盛り場でした。直武による同じ題の眼鏡絵は、双方とも当時の賑わいを反映させずに、逆に静謐さをかもし出しています。この絵は明治24年(1891)に日本美術協会常会に展示され、その後絵はヨーロッパに渡ったと推定されています。旧所有者とされるフランス人のルイ・ゴンス（1846−1921）は、有名な日本美術蒐集家で、ジャポニスムを盛り上げた『ガゼット・デ・ボザール』誌の編集長でもありました。この絵はゴンス亡き後、ベルリンの画廊を経て日本に里帰りしたとされていますが、その詳しい来歴は知られていません。

7 佐竹曙山筆　湖山風景図
秋田市立千秋美術館蔵

佐竹曙山　湖山風景図

曙山は小田野直武所持のヤン・ブリューゲル原図銅版画《良きサマリア人》を元に、この構図を決めました。版画の近景、中景、遠景を忠実に真似ているため、自然な空間表現が達成され、陰影法によって西洋の景色がすっかり日本の景色に変わっています。遠景の空に場違いな程大きい蘭語印（Segotter vol Beminnen ＝至愛の海神）が印象的ですが、その真の意味は謎のままです。曙山はこの印の他に三種の蘭語印を使用しました。

不忍池図 / 芍薬花籠図

第二次世界大戦後再発見され重要文化財に指定されたこの《不忍池図》は、その花のモチーフについて専門家の議論の的となっています。最近の研究では絵の中のシャクヤク、西洋サルビア、キンセンカは薬草と解釈されています。平賀源内を通じて『解体新書』の挿絵の仕事を請け負った直武は、東西の薬草に関する本草学を専らとした源内の側におり、江戸文化の中心に立つ秋田蘭画の文化的背景が浮き上がってきます。舶載の植物図鑑や薬草辞典などは平賀源内の蔵書となっており、直武はそれらを参考にしたと推察されます。

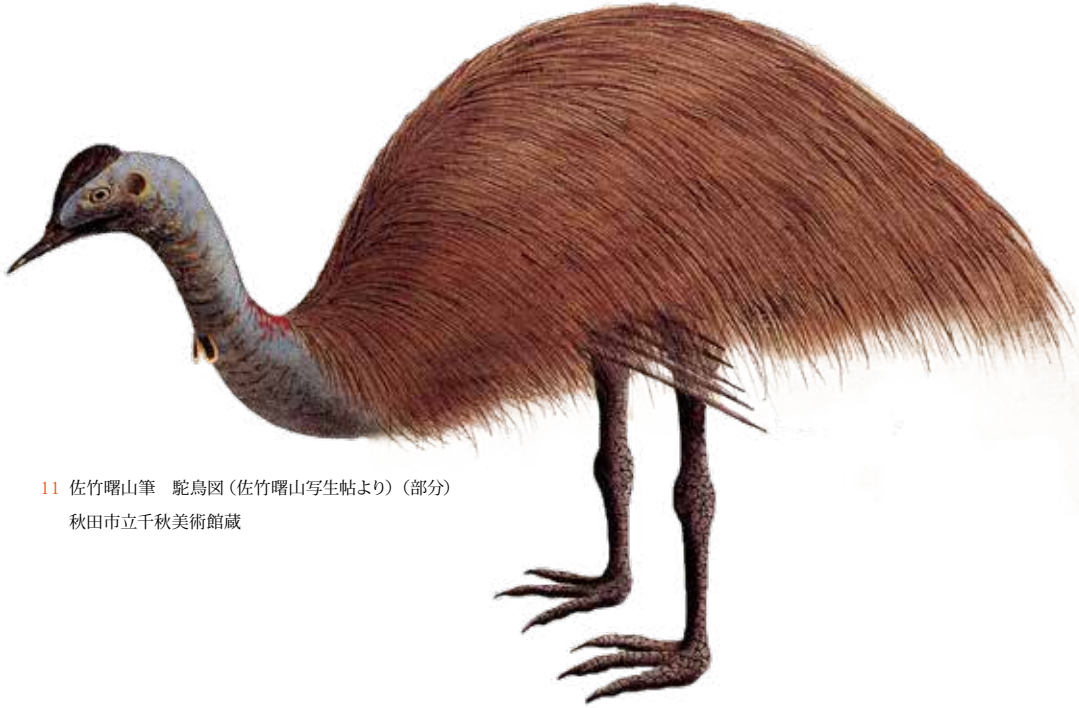
8 小田野直武筆　不忍池図
秋田県立近代美術館蔵

9 小田野直武筆　芍薬花籠図
秋田県立近代美術館蔵

秋田蘭画写生帖

秋田蘭画は細かく写生された花、鳥、昆虫等を収めた写生帖を使い絵を完成させたことで知られています。これらの写生帖からは、秋田蘭画の画家達が純粋な様式の追及から、創造性豊かな構図作品を生み出したことがうかがえます。彼らは職業画家ではなかったため、制作された絵は公開市場にでまわることはありませんでした。

10 佐竹曜山筆　天蚕図（佐竹曜山写生帖より）（部分）
秋田市立千秋美術館蔵



11 佐竹曜山筆　駝鳥図（佐竹曜山写生帖より）（部分）
秋田市立千秋美術館蔵

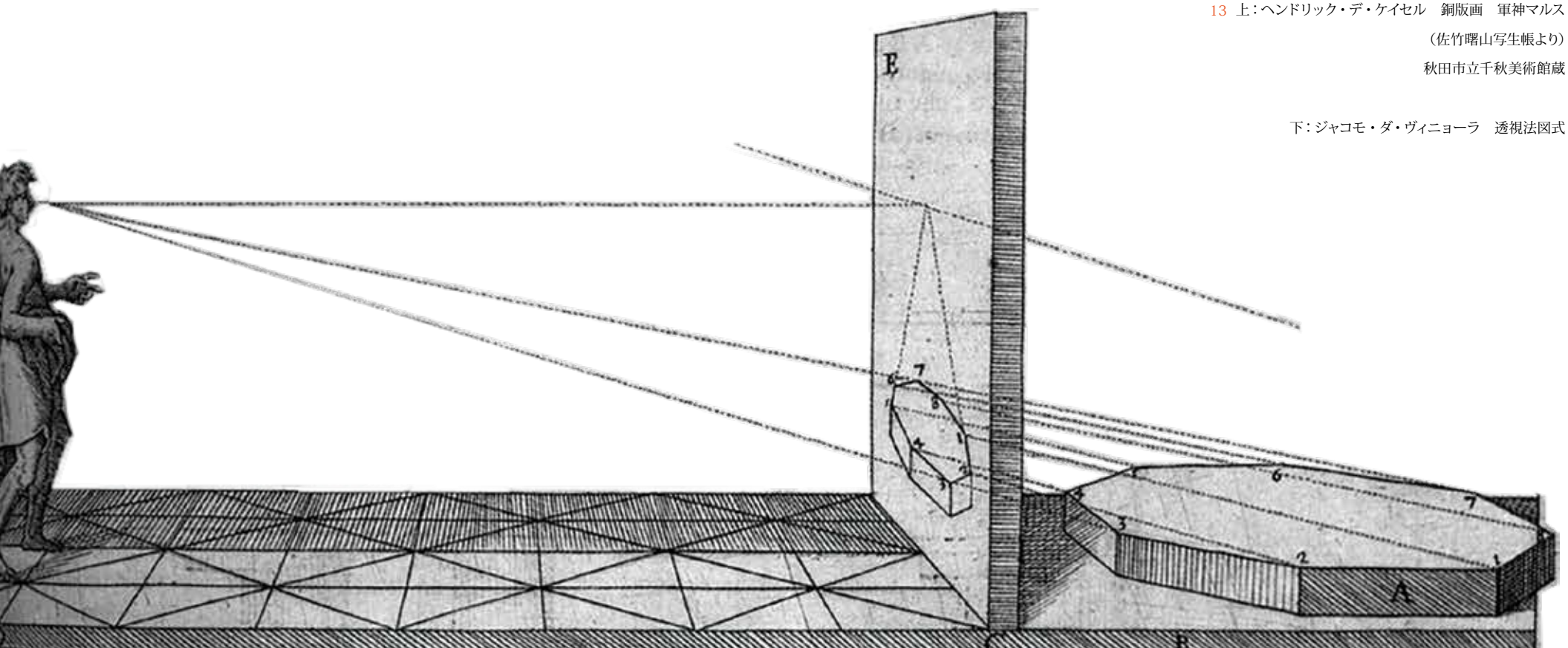
12 小田野直武筆
蓮の巻葉図（小田野直武写生帖より）（部分）
秋田県立近代美術館蔵

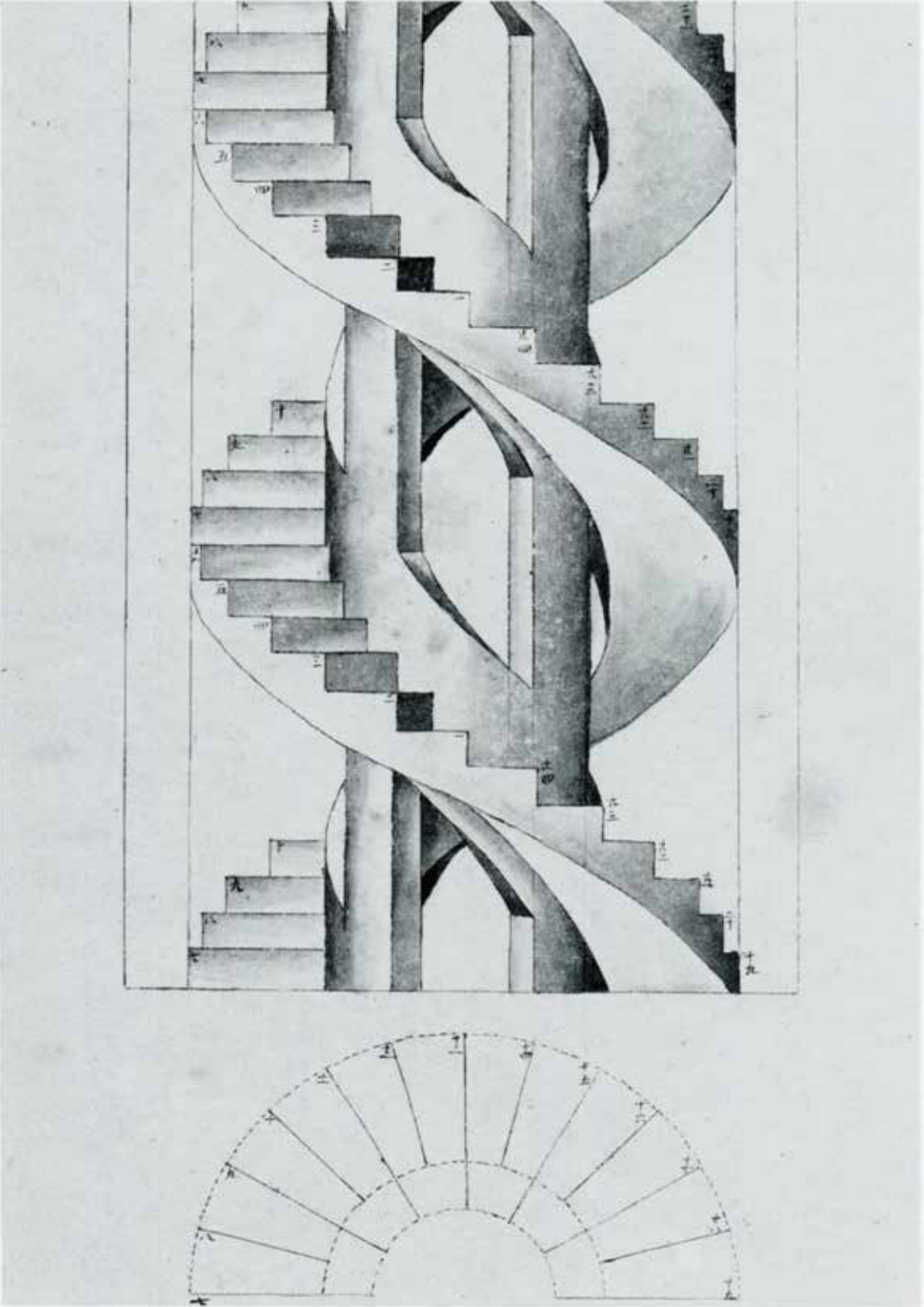
秋田蘭画の展開と洋画法論

佐竹曙山は 1778 年に日本初の西洋画論となる、画法綱領 ・画図理解・丹青部の三つの画論を書き、それぞれの中で、線遠近法、描法、陰影法、また色の合わせ方などを挿絵もつけながら説きました。曙山はヨーロッパ絵画の実用性を尊ぶ写実主義を高く評価しています。このように平賀源内を通じて蘭学の考えを取り入れて、曙山は自分の家来であった小田野直武の助けを得てこれらの画論を完成させました。

13 上：ヘンドリック・デ・ケイセル　銅版画　軍神マルス
（佐竹曙山写生帳より）
秋田市立千秋美術館蔵

下：ジャコモ・ダ・ヴィニョーラ　透視法図式





佐竹曙山　二重螺旋階段図

曙山が残した『写生帖』の第三冊には日本初の西洋絵画に関する画論が収められています。その中には透視図法と陰影法に関する挿絵があり、この二重螺旋階段図も登場しています。二重螺旋階段を用いた建築の例では、フランスのシャンボール城のレオナルド・ダ・ヴィンチが考案したとされる階段が最も有名です。曙山が写し取った図はモクソン著『実用透視図法書』(1670) の中の図とする説が有力ですが、その図のルーツは 16 世紀に著述されたイタリアの建築家ヴィニョーラの建築書『実践遠近法規則』(1583) に見られる二重螺旋階段図です。しかし、何故曙山がこの図を西洋画論の書の中に取り入れたのかは謎のままです。

14 佐竹曙山筆　二重螺旋階段図（佐竹曙山写生帖より）（部分）
秋田市立千秋美術館蔵

秋田蘭画の悲劇

このように、秋田蘭画は蘭学が花開く江戸後期に登場し、線遠近法や陰影法などの西洋画法を東洋の絵に適用したその独特の表現方法で知られました。
ところが、秋田と江戸で名声を得た直武に、突然の悲劇が訪れます。1779 年、指導者の源内が投獄され獄中死し、関係者も影響を蒙りました。直武は公的地位を失い、翌年の春郷里の角館で急逝します。五年後の 1785 年には秋田藩の大名だった曙山も亡くなり、次の世代の後継者は生まれず、この一連の悲運が秋田派の短命の原因となりました。一方、司馬江漢 (1747 − 1818) は直武に西洋風を学び、曙山の『画法綱領』に多くを習い発展させた自身の『西洋画壇』を執筆するなど、秋田派は当時の画家に影響を与えました。

❊

秋田蘭画が忘れ去られて百年余りたった 1900 年頃、秋田派は再発見されます。そして 1930 年には、角館生まれの日本画家の平福百穂 (ひらふく　ひゃくすい) が日本初の秋田蘭画の研究書『日本洋画曙光』を出版することになります。この著書は今日でも秋田蘭画専門の研究者の基本的な文献となっています。

15 佐竹曙山筆　燕子花にナイフ図（部分）
秋田市立千秋美術館蔵

ヨーロッパ絵画への影響と秋田蘭画の今日

独特の視覚で構図を決める秋田蘭画派はヨーロッパのモネやゴッホなどの印象派の画家達に北斎や広重の浮世絵を通して間接的に影響を与えたとみられています。
小田野直武と佐竹曙山の傑出した画才は秋田蘭画の作品群にそのエッセンスが凝縮されています。誇張された近景拡大、そして遠景の効果的な奥行き感による独特な空間表現、そして花のモチーフ等の写実的且つ優雅な表現により、今日なお、斬新で、清楚、またいろいろな驚きに満ちていると言えるでしょう。

左：フィンセント・ファン・ゴッホ　種蒔く人
ファン・ゴッホ美術館　アムステルダム

16 右：佐竹曙山筆　松に唐鳥図（部分）
秋田県立近代美術館寄託　個人蔵

参考文献

- Johnson, Hiroko, *Western Influences on Japanese Art: The Akita Ranga Art School and Foreign Books*, Amsterdam: Hotei Publishing 2005
- Screech, Timon, *The Lens Within The Heart: The Western Scientific Gaze and Popular Imagery in Later Edo Japan,* University of Hawai'i Press 2002
- 今橋理子『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』東京大学出版 2009
- 武塙林太郎編『画集秋田蘭画』秋田魁新報社 1989
- 平福百穂『日本洋画の曙光』岩波書店 2011

目録

1. 小田野直武筆　鷹図
秋田市立千秋美術館寄託　個人蔵

2. 小田野直武筆 『解体新書』附図　扉絵
秋田市立千秋美術館蔵

3. 小田野直武筆 『解体新書』附図 「神経従脊椎出」
秋田県立図書館

4. 佐竹曙山筆　松に唐鳥図
秋田県立近代美術館寄託　個人蔵

5. 佐竹曙山筆　唐鳥図
（佐竹曙山写生帖より）
秋田市立千秋美術館蔵

6. 小田野直武筆　三つまたの景
天理大学附属天理図書館蔵

7. 佐竹曙山筆　湖山風景図
秋田市立千秋美術館蔵

8. 小田野直武筆　不忍池図
秋田県立近代美術館蔵

9. 小田野直武筆　芍薬花籠図
秋田県立近代美術館蔵

10. 佐竹曙山筆　天蚕図
（佐竹曙山写生帖より）
秋田市立千秋美術館蔵

11. 佐竹曙山筆　駝鳥図
（佐竹曙山写生帖より）
秋田市立千秋美術館蔵

12. 小田野直武筆　蓮の巻葉図
（小田野直武写生帖より）
秋田県立近代美術館蔵

13. ヘンドリック・デ・ケイセル　軍神マルス
（佐竹曙山写生帖より）
秋田市立千秋美術館蔵

14. 佐竹曙山筆　二重螺旋階段図
（佐竹曙山写生帖より）
秋田市立千秋美術館蔵

15. 佐竹曙山筆　燕子花にナイフ図
秋田市立千秋美術館蔵

16. 佐竹曙山筆　松に唐鳥図
秋田県立近代美術館寄託　個人蔵

表紙：花鳥・二重螺旋階段モチーフ　佐竹曙山写生帖より　秋田市立千秋美術館蔵

p.2：小田野直武　不忍池図（部分）秋田県立近代美術館蔵

p.4：鳥蝶モチーフ　佐竹曙山写生帖より　秋田市立千秋美術館蔵

p.6：佐竹曙山　松に唐鳥図（部分）秋田県立近代美術館寄託　個人蔵

裏表紙：唐鳥図（部分）　佐竹曙山写生帖より　秋田市立千秋美術館蔵

Akita
International
University

A I U